



こんにちは

市会議員

日本共産党

西野さち子です

くらしの目線で市政を変える

2016年2月
京都市長
選挙

いま 憲法市長 本田久美子さん囲んで要求懇談 いのち・くらしを守る京都市政を!! 戦争法廃止へ力あわせて!!

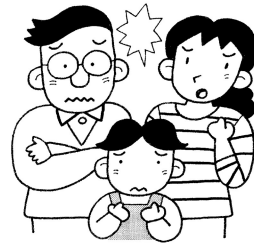


10月25日にパセオダイゴロで市政に対する要求交流集会が開かれました。民主市政の会の本田久美子さんが参加されて「来年の市長選挙に立候補をします。皆さんの声を聴き、市政を変えます。敬老乗車証の改悪は許しません。まち壊しや学校跡地を民間企業の金もつけに使つなどは許しません」と訴えられました。

西野市議は議会報告をして、住民の皆さんの要望や質問に答えました。参加者からは「市営住宅の住み替え制度」「保育環境の整備」「バス停の改善」等多岐にわたる要望が出されました。

9月議会報告

市民の声に背を向け
安保法制を認める姿
勢が明らかに



10月29日、9月市会が閉会しました。市長は安保法制に対する認識を最後まで答弁しませんでした。副市長が「国会で議論して決めたこと」と答弁し、改憲団体の総会に祝電を送る有様です。

今市会に提案された85議案のうち日本共産党市会議員団は、68議案に賛成し、一般会計や国保会計、マイナンバー施行に伴い個人番号の利用に関

決算特別委員会の西野市議の主な質問

■敬老乗車証の改悪反対

醍醐地域からも短期間に多くの署名が集められ、京都市に2万2千筆を超える署名が届けられました。「市民の宝物」と喜ばれている制度です。特に醍醐地域では、毎日コミュニティバスに乗ってお買い物や病院に通う人も多くおられます。70歳以上の高齢者に無料券を何枚か配り、なくなれば1回100円程度の負担にする計画ですが、負担が増えることは明らかです。せめて今の制度で残すべきと質しましたが「無料券を配るので負担が増えるとは考えていない」「多く乗る人には負担をしてもらおう」と答弁がありました。制度を守るために更に大きな運動を作りましょう。

■市営住宅の空き家改修の拡大を

市営住宅の維持管理に使うための予算が、決算では不用額として多く残っていることを指摘して、「もっと空き家の改修ができたはず。どこの団地でも空き家が目立っている。その一方で公募倍率は数十倍の所も多い。空き家の改修をして入居してもらえば家賃収入も増える。」と質しました。「不用額を回すことはできないが空き家改修を進めるように努める」と答弁がありました。



する条例、産業会館を解体し「経済センター」の建設に伴い四条烏丸駐車場の廃止する条例改正など17議案には反対しました。

市長は「一般会計決算は5年連続で「黒字」を維持拡大した」といいますが、政令市比較で非正規労働者の割合ワースト1位、事業所の減少率ワースト2位、国保料滞納差し押さえ4倍化など、市民生活は全国最低ランクに落ち込んでいます。その一方で南部クリーンセンターの展望台には2億5千万円や、他都市で2年半で39回も事故を起こしているバイオガス施設に30億円も使おうとしています。敬老乗車証制度の改悪も進める計画です。